

がんの正しい知識学ぶ

県民がんフォーラム(県がん診療連携協議会など主催、徳島大学病院がん診療連携センター、徳島新聞社共催)が19日、徳島市の徳島大蔵本キャンパス大塚講堂であった。「がんどうまく付き合うために」とのテーマで医師ら7人が講演し、約380人が理解を深めた。

協議会の森根裕二会長はがんは国民の2人に1人がかかる病気の一方、検診で早期に見えれば治せる可能性があり、予防できるものも多いと指摘。病気や治療法に関して正しい知識を身に付けておく必要があるとし、国立がん研究センターホ-

徳島市で県民フォーラム

ムページの「がん情報サービス」などの活用を勧めた。

緩和ケア認定看護師の明石和子さんは、抗がん剤治療などに伴う脱毛といった見た目(アピアランス)の変化に対する患者の苦痛を軽減する「アピアランスケア」の重要性を説明。自分らしさを失わずに治療への意欲を保たせるのが目標で、「外見の変化は治療の幅を狭めてしまう。心と外見のケアが必要だ」と語った。

このほか、最新のがんの薬物療法やロボット支援による手術、治療中の食事・栄養などに関する講演があった。

(若武)



最新のがん治療や患者をサポートする取り組みが紹介されたフォーラム＝徳島市の徳島大蔵本キャンパス大塚講堂